

令和6年度 第2回米原市地域包括支援センター運営協議会 会議録

日 時	令和7年3月6日（木）午後7時から午後9時	
場 所	米原市役所 本庁舎1階 コンベンションホール	
出席者	委 員	塚本隆弘委員、瀧上啓志委員、西沢祐太郎委員、臼井志織委員、 吉田待子委員、竹腰裕紀委員、長野温子委員、横井弘隆委員、田中雄一委員 （欠席：久保健次委員）
	事務局	くらし支援部 : 宮野 米原市地域包括支援センター : 今村、夏原、祖父江、入戸野、富士原、井尻、 成田 米原近江地域包括支援センター : 山添センター長、橘、桐山、吉田、内藤、尾川 山東伊吹地域包括支援センター : 今井センター長、川瀬、高居、原 認知症初期集中支援チーム : 中村、（今井）、堺 高齢福祉課 : 伊藤、中島
議 題	地域包括支援センター 協議・報告事項 （1）令和6年度地域包括支援センターの事業評価について 資料1 （2）令和7年度地域包括支援センター運営方針（案）について 資料2 （3）指定介護予防支援事業および介護予防ケアマネジメント業務の 一部委託にかかる指定居宅介護支援事業所について 資料3 （4）地域ケア推進会議（令和6年度地域ケア個別会議の実績について） 資料4 認知症初期集中支援チーム検討委員会 （1）令和6年度認知症初期集中支援チームの事業報告について 資料5	

地域包括支援センター 協議・報告事項

（1）令和6年度地域包括支援センターの事業評価について

委員	・レーダーチャートで介護事業計画など全て見ていくと、相談事業の中では、どちらかというと総合相談支援、権利擁護等もいい数字が出ているが、特に権利擁護や虐待対応が伸びているところがあると思う。家族関係が希薄になっていたり、家族による虐待が増えていたり、そんなようなことで包括としての機能について変わってきた部分があるのかどうか教えてほしい。
事務局	・虐待ケースは年々増えている状況です。米原市においても今年、特に増えていると感じております。虐待されている方も孤独であったり、あと発達障がいをお持ちだったりというケースが増えてきていると思っておりますので、どのような支援をしていくかということも、今後の米原市の課題だと思っております。
委員	・包括は今までから、どちらかというと家族もいない、関係者も少ない中で直接的に介入していかないといけないケースが多く、負担が増えているのではないかと思います。いろいろ負担が多い中で、地域

事務局	包括支援センターの職員 1 人当たりの担当する高齢者数が 1500 人以下となっていない。ただ、それに基幹包括支援センターに保健師や社会福祉士を配置しているので、それを各地域包括支援センターの職員に換算すると正常数であると記載があるが、各地域包括支援センターと基幹型包括支援センターの関係や支援はどういう形で動いているのかなど具体的に教えてほしい。 ・直接的ケースは主に地域包括支援センターが対応していますが、困難なケースに関しましては、地域包括支援センターから基幹包括支援センターに相談がありまして、一緒に動いているというような現状です。
-----	--

(2) 令和 7 年度地域包括支援センター運営方針（案）について

委員	・赤字の部分がプラスされるということでマネジメントの内容はよく分かるが、あくまでも運営方針としてここまで具体的に書くのかと思って見ていたが、全体をここまで具体化したものを書いていくのか。そうすると事業計画のようなものになる。あくまで運営方針としてマネジメントの自立支援重度化防止をもっと充実させるまでの方針という取り扱い方のほうがいいのではないか。そのあたりのバランスはどうなのかと思った。
事務局	・少し具体的な感じですが、必要なことであると考えておりますので記載しております。また今後全体のバランスを見ながら進んでいきたいと考えております。

(3) 指定介護予防支援事業および介護予防ケアマネジメント業務の一部委託に係る指定居宅介護支援事業所について

	指定介護予防支援事業および介護予防ケアマネジメント業務の一部委託に係る指定居宅介護支援事業所について説明し、意見はありませんでした。
--	---

(4) 地域ケア推進会議（令和 6 年度地域ケア個別会議の実績について）

委員	・地域ケア推進会議の進め方、地域ケア推進会議の位置づけの関係図を見ている中で、右側の包括ケア 5 つの機能のうちの③までは、先ほどの包括支援センターからも抽出はできているということまでと同じことかなとは思いますが、地域ケア推進会議や運営協議会が機能の④と⑤を担い、そこから介護保険の運営協議会などに提言、提案するというプロセスの中で、ここで話すのであれば何かもう少し整理されたものを出すか、もう 1 つなにか欲しいようにどうしても思ってしまう。例えばレジメは最近の実績についてというよりも、その実績を踏まえて介護保険の運営協議会への提案内容についてなど施策的に具体的にこういうふうにあげたいという話をしていかないと、現場からの困り事と具体的に提案する事業計画施策というところがもう少し繋がりがきらない気がする。この協議会にあげれば全てが施策化されるわけではないと思いますし、毎年行う事業計画や予算の中で現場が提案することなどもあると思うので、それを踏まえると会議のタイミングや協議するタイミング、内容というのがもう少しうまく回るような運営してもらえると非常にこちらもありがたい。結局現場の方が支援しやすい環境が整うことになるのかというところが聞いていて感じるところです。
委員	・個別会議の検討ケースで検討しているが課題があつて対応策を検討されて、成果はどうなっている

	のか。対応されたことに対する評価が無いような気がするが、こういう問題点があつてこういうふうな対応をした方が良いというところまでしかないと思うが、そのあとが大事なのではないか。
事務局	・成果はどうだったか、それに対して評価はというお話いただきましたが、栄養に関する湖北地域での支援などはやはり十分でないということが見えてきました。それは課題であると思うのですが、栄養士はここにいるなどそういった情報を提供させてもらったことでまだ1 ケースではありますが、ケアマネから栄養士の連携を求めて実際に訪問し、利用者が具体的な栄養の改善に繋がったということが個別課題解決の成果であると思っています。
事務局	・結論から残された方がいて、評価、成果というのがここに残せていないというのは不十分だと思います。支援を継続していく中で個別の支援経過などには記録として残してあり、例えば今説明したこの3 番の方に関してはつい最近免許返納というところまでもっていけました。ケースが流れていく中で継続して関わって記録としては残っていますが、地域ケア個別会議をしたその後どのように動いたかということが一覧の表で表せてないというのは、今後改善していかなければいけないと感じていますので対応しようと思います。
委員	・普段ケアマネジャーの仕事をしているので、栄養アセスメントシートの活用など検討してくださっているので自分も活用していかなければいけないなと感じた。
委員	・お茶の間サロン活動終了後にスタッフが集まり、見守りネットワーク会議を月4 回、第1、第4 水曜日に実施している。会議をすることで地域の課題が少し見えてきたような気がしている。社協の山東担当の方が来て熱心に話を聞いてくれる。社協の方が来てくれることで地域の情報が社協などにも届くようになり、地域課題の掘り起こしができるので、やっている価値はあると感じている。
委員	・小規模多機能型居宅介護施設で管理者をしており、地域ケア会議に参加した事もあるが、どうしてもケアマネも職員も事業所の中にいるので、事業所の中で課題を抱え込みがちになるが、地域包括と一緒にケア会議で課題の洗い出しなどを行い、すぐに解決というのはこちら側もスピード感を持って対応できないところもあるので難しいが、自分たちだけじゃないという心強さを感じている。
委員	・民生委員は地域に私1 人だが、見守りネットワーク会議などでいろいろな方と話をする中で、この頃の様子がおかしいという人をみんなが気にかけることができるというのはいいことだと思っている。地域包括や社協も来てネットワーク会議で少し気になるなという人を地域で見守りしている中で、地域包括に相談し、地域包括に繋いで介護の申請に進んだら1 つ仕事が終わった感じになってしまう。地域の気づき、地域の目というのは大切だと常に思っており、できるだけ地域でできることは1 人で抱え込むのではなく、家族だけで抱え込むのでもなく近隣の人たちと共有できるということはいいいことだと思う。見守りネットワーク会議の中には高齢者世帯の方で最近小規模多機能型居宅介護施設に変わられた方があって、そこの方もその担当者の方も説明に来て、あまり介護保険のことはわからないが話を聞くと地域の人もすごく安心してくれるのでお世話になっている。みんなが住みやすい地域になるような見守りができたらいいなと思っている。
委員	・私は医療に携わっているが、医療の現場は一番情報が少ないのではないかと考えている。患者さ

	んと診察室で接しているだけで本当に情報が少ない中で診察している。一番情報入ってくるのはケアマネージャーで、問題があると訪問してくださっていろいろな情報をケアマネージャーからもらっている。数年前、往診の際これはもしかしたら虐待じゃないか、ネグレクトじゃないかと思うケースがあり、ケアマネさんに連絡したが、そんな大したことないですよという感じだったが、1年後くらいに緊急で施設に入ってもらうので紹介状を書いてくださいと米原市から連絡がきたケースがあった。このとき、もし自分が問題を発見する立場にあったら、ケアマネージャーではなく地域包括支援センターか市に連絡するべきだと、連絡する先を間違えたなと後々と思ったことがあった。
委員	・虐待のことで結局実態として米原市でなかなか受け皿がない中、特別養護老人ホームは経営や運営上、個室運営が多く、虐待で一時保護をしても多床室の空きがなく経済的な部分で受け入れが難しい現状があったと思うが、これは米原市特有の問題なのか、例えば他の市町でもそういう問題があって、そういう問題はどのように改善して乗り越えられているのか。そこはそもそも社会福祉法人の責務で、個室でも一定受けもらえるようにするなど、一時的に居室がなくても医務室など使う方法もあると思うが、その辺り協力を求めて行くとか、例えば個室の場合には一時的な保護のときだけは何らかの補助金を作るとか、具体的に詰めていきながら、それを提案したり予算化したりしていかないと現場としてはずっとしんどいままになる。そういう話がより具体的に何処でそれをするのかもう少し見えないので、これからそういうことが協議できるといいと思う。
事務局	・ありがとうございます。虐待の会議として、虐待のネットワーク会議というものがあります。そこに様々な関係者の方々が集まってどういう施策を打っていけばいいのか、虐待防止するにはどうしたらいいかという協議する場を設けています。また、この地域包括支援センターの運営協議会でこのような意見が出たということで、ネットワーク会議の方にも議題としてあげさせていただけたらと思います。

認知症初期集中支援チーム検討委員会

(1) 令和6年度認知症初期集中支援チームの事業報告について

	令和6年度 認知症初期集中支援チームの事業報告について説明し、意見はありませんでした。
--	---

(了)